2021年度　学校評価総括表　伊丹市立笹原小学校

教育目標	心身豊かに学び合う子どもの育成
重点目標	Ⅰ学び合いの学校づくり
	①教育目標の具現化に向けて、学校評価検討委員会及び学校運営協議会を計画的に開催し、課題を共有して組織的改善に取り組む。
	②伝え合いひびき合う学びを目指して、「聴く力」「話す力」「話すための書く力」を中心としたコミュニケーション能力を各学年で系統的に指導し、基礎・基本の定着をはかる。
	③学習面や行動面で個別支援の必要な児童の情報共有を推進するとともに基礎的環境整備の充実、合理的配慮の提供に努める。
	④一人ひとりの子どもにたくましく生きる力やお互いを思いやる心を培うキャリア教育と道徳教育を推進する。
	⑤教員の情報機器の活用能力の向上をはかり、よりわかりやすい授業作りに努める。
	⑥「きれいにしよう」とする意思・能力・態度を育て、掃除時間が自分を磨く時間となるよう指導する。
	⑦学校生活のきまりについて全職員が共通理解をはかりつつ指導にあたる。
	⑧楽しく安心して運動に取り組むことができるよう指導する。
	⑨教職員の業務の精選。
	Ⅱ開かれた学校作り
	①不登校・いじめ・問題行動の未然防止・早期発見・即時対応に努め、家庭や地域、学校運営協議会、関係機関と連携した取り組みを進める。
	②災害からの身の守り方や交通ルールなど校内外での安全な過ごし方の指導を徹底するとともに、職員・地域・保護者で連携をはかり、子どもたちの安全を守る。
	③学校だよりやホームページ、保護者向け一斉メール配信等を活用して、積極的な情報発信を行うとともに、情報管理を徹底する。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	(1)教育課程	教育目標の具現化に向けて、校務分掌の垣根を越えて課題を共有、解決できる場を設定する。	・学校評価検討委員会を計画・運営する。その中でそれぞれの分掌の現状と課題を集約し、共有・検討できるような教育課程の立案、施行、評価を行う。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、教科横断的な視点で教育課程を行う。 ・職員会議においては、部会・学年打ち合わせ等を有効に活用し、提案及び協議内容を精選し、スリム化をはかる。 ・教職員用のマニュアルを活用し、全職員が共通理解をはかりつつ業務、指導にあたる。 ・チームワークと時間対効果を意識した業務の推進を行う。	・学校評価検討委員会を適宜開催し、①今年度の重点目標、具体的施策の検討②成果と課題、改善策の検討③来年度重点目標の設定を行い、教育目標の具現化に役立てる。 ・学校評価アンケートの教育課程の項目「お子さんは楽しく学校に行っていますか」、「学校は楽しいですか」で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度94%、86%) ・教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見が85%を超える。(昨年度96%)	B	(成果) ・学校教育目標・重点目標を意識して教育活動に取り組むことができた。 ・保護者アンケート「お子さんは楽しく学校に行っていますか」で肯定的な意見が96.1%(昨年度94%)、児童アンケート「学校は楽しいですか」で肯定的な意見が90.1%(昨年度86%)で昨年度を上回ることができた。 ・児童アンケート「学校行事は楽しいですか」で肯定的な意見が96.1%(昨年度94%)、保護者アンケート「お子さんは学校行事に楽しく参加していますか」で肯定的な意見が97.8%(昨年度98%)で昨年度と同等であった。 ・超過勤務の時間の目標を達成することができた。 (課題) ①教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見が84%であった。(昨年度96%)	①ICT機器の活用やペーパーレス化、業務の見える化を推進し、更なる業務改善を推進する。	2年続きのコロナ禍において、楽しく学校に登校しているとのアンケート結果が、前年同等という事で、喜ばしいと思う。教職員の皆様が、工夫しながら進められている結果がアンケートに結びついているものと思う。 ①課題、改善策については、優先順位を明確にしながら、是非進めて頂きたい。
	(2)学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」や「伝え合いひびき合う学び」の獲得に向けた授業のあり方を研究する。 ・読み書き計算などの基礎的な学力を児童に定着させるための教育活動を計画する。	・発問の内容やタイミングに焦点化した授業づくりを推進する。 ・配慮を要する児童に対する手立てを具体化し、全ての子の授業参加を促す。 学力向上委員会において、系統的な朝学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などの検討を行う。	・教職員用内部アンケート、「本校の教師は『伝え合いひびきあう学び』を目指した授業を意識している」の肯定的意見の割合が90%を超える。(昨年度73%) ・児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的意見の割合が90%を超える。(昨年度94%) ・保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」で、肯定的な意見が88.9%(昨年度84%)で昨年度を上回ることができた。 いずれの項目においても、達成目標を満たすことができた。 (課題) ①職員アンケート「本校の児童は基礎的な学力がついている」で肯定的な意見が78.7%であり、基礎学力に課題を感じていることがうかがえる。 ②授業力向上のための授業公開や研修、共有の場を十分に確保することができなかった。	A	(成果) ・教職員用内部アンケート「本校の教師は『伝え合いひびきあう学び』を目指した授業を意識している」で肯定的な意見が93%(昨年度73%)で昨年度を上回ることができた。 ・児童アンケート「学校の授業はわかりますか」で、肯定的な意見が92.9%(昨年度94%)で昨年度と同等であった。 ・保護者アンケート「お子様は学力が定着していますか」で、肯定的な意見が88.9%(昨年度84%)で昨年度を上回ることができた。 いずれの項目においても、達成目標を満たすことができた。 (課題) ①職員アンケート「本校の児童は基礎的な学力がついている」で肯定的な意見が78.7%であり、基礎学力に課題を感じていることがうかがえる。 ②授業力向上のための授業公開や研修、共有の場を十分に確保することができなかった。	①朝学習や授業の冒頭など、基礎学習に充てられる時間の持ち方を、引き続き学力向上委員会で検討する。また教師の主観ではなく客観的な方法で、基礎学力の定着を確かめる方法を検討する。 ②コロナ禍による制限や学校行事との兼ね合いがあるが、計画的な企画と日程調整を行う。	学習指導に関しては、アンケート結果が、昨年と比べてかなり上回っており、次年度も定着させて頂きたい。 基礎学力については、最も重要と思うので、各学年団の先生方で、共通テスト(単元)などを検討して頂き、クラス間の差が出ない様、又は遅れ気味の児童へのフォローを確実にお願いしたい。
豊かな心・健やかな体	(3)生活指導	・問題行動の未然防止、早期解決を図り、児童が楽しく過ごせる環境を作る。 ・不登校の早期発見、対応に努め、児童が安心して通えるよう支援する。 ・いじめの未然防止、早期発見を図り、児童が楽しく過ごせる環境を作る。	・学年、生活指導部会、管理職間の円滑な連絡体制の確立、校内職員の共通理解を徹底し、チームで課題解決にあたる。 ・日々の観察から登校しぶり等に気がつき、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・いじめ防止等のための基本方針にそった対応マニュアルの見直しと周知を行い、組織的な対応を継続する。 ・年3回のいじめアンケートの活用やセルフチェックシートによる観察からいじめの早期発見、対応に努め、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・道徳教育でいじめや差別の問題について考え、日々の行いに立ち返る働きかけを行う。	・教師の校内アンケートにおいて「本校は問題行動が起きたとき、組織的に対応できているか」が90%を超える。(昨年度94%) ・保護者アンケートにおいて「お子さんは楽しく学校に行っているか」が90%を超える。(昨年度95%) ・保護者アンケートにおいて「学校はいじめや心の問題に適切に取り組んでいますか」が80%を超える。(昨年度72%) ・児童アンケートにおいて「あなたのクラスでは、いじめのないクラスづくりに取り組んでいますか」が90%を超える。(昨年度85%)	B	(成果) ・教職員用内部アンケート「本校は問題行動が起きたとき、組織的に対応できているか」で肯定的な意見が100%(昨年度94%)で目標の90%を上回った。 ・保護者アンケート「お子さんは楽しく学校に行っているか」で肯定的な意見が96.1%(昨年度95%)で目標の90%を上回った。 (課題) ①保護者アンケート「学校はいじめや心の問題に適切に取り組んでいますか」で肯定的な意見が74.6%(昨年度72%)で目標の80%を下回った。 ②児童アンケート「あなたのクラスでは、いじめのないクラスづくりに取り組んでいますか」で肯定的な意見で88.6%(昨年度85%)で目標の90%を下回った。 ③(自由記述より)持ち帰りの持ち物が多い。	①保護者アンケートは21.7%が「わからない」と回答しており、学校の取り組みが家庭にわかりやすく伝わってないことが推測できる。いじめに対する学校の取り組みをホームページや家庭との連絡の際に丁寧に説明していきたい。 ②児童アンケートの「いじめのないクラスづくり」という文言にいじめや嫌なことが1件でもあれば「いいえ」と答える児童が一定数いるのではと推測できる。来年度のアンケートから「いじめを許さないクラスづくり」に文言の変更を依頼する。 昨年度より保護者も児童も微増傾向であるため、今年度の取り組みを継続していく。 ③情報部とも連携し、デジタル教科書の普及等の情勢の変化に合わせて削減していくことを、適宜検討していきたい。	コロナによって、子どもたちの心の変化(マスクによって表情が見えにくい)がわかりにくくなっているかと思う。声掛けもソーシャルディスタンスで近くでは出来にくい環境となっているが、特に気にかけて欲しい。 いじめの芽は、早期発見、早期対応が肝心なので、色々なケースを想定した予知活動を進めていってはどうかと感じる。
	(4)安全管理	・地震・火災・不審者遭遇時、児童が自分で判断し、命を守るための行動をとることができるようにする。 ・正しい校内の歩き方や通学のしかた、自転車の乗り方ができるようにする。 ・上の2点について、安全指導について家庭と連携を図りながら取り組む。	・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらも、自分で災害や不審者から命を守るための指導や訓練を適切に行っていく。 ・通学路や校内の正しい歩き方について、教職員が引き続き意識を統一させ指導にあたる。 ・終業式や学校朝礼による全体指導や資料を活用した学級しどうなどを通して啓発する。 ・児童が、安全について学習したことを保護者にきちんと伝えられるような指導を行う。また、指導内容が家庭に伝わる工夫(手紙、懇談、ホームページ等)をして啓発する。	・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「もし火事や地震にあったり、ふしん者に出会ったりしたら、先生がいなくても身を守る行動ができるか」で、肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度91%)　かつ、訓練に真剣に取り組むことができる。 ・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができている」で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度77%) ・学校評価の保護者アンケートの「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度82%) ・学校評価保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるよう指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度89%)	B	(成果) ・児童アンケート「もし火事や地震にあったり、ふしん者に出会ったりしたら、先生がいなくても身を守る行動ができるか」で、肯定的な意見の割合が94.4%(昨年度91%)で目標を上回った。 ・3学期は、地震の避難訓練と1から3年生までの引き渡し訓練を行った。コロナ禍の中であったが、地震の避難訓練は予告なしで、昨年度1年生だけだった引き渡し訓練も1年生から3年生まで行った。その後、子どもたちの振り返りをとることで、自分自身の事として捉え積極的に参加することができた。(保護者アンケートが2学期であったこと、コロナ禍であったことなどの理由でアンケート結果が例年より下回ったと思える。) (課題) ・児童アンケート「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができている」で、肯定的な意見78.7%(昨年度77%)と昨年度より少しよがったが、目標を上回ることはできなかった。 ・保護者アンケート「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」で、肯定的な意見が78.8%(昨年度82%)と目標を達成することができなかった。 ・保護者アンケート「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見が85%(昨年度89%)と目標を達成することができなかった。	・引き続き教職員一人ひとりが交通ルールやマナーに対する意識を持って、日常的に指導したり、登校指導の時に声をかけたりしていく。始業式や終業式などで全校生に一斉によびかける。「笹ポーター」と連携し、様子を教えてもらうようにする。 ・感染が広がらないように配慮しつつ訓練の実施方法を前向きに今後も検討していく。また、保護者にも引き渡し訓練などに参加してもらい、災害時の動きをよびかける。	昨今、日本あちこちで地震が発生しており、休み時間など先生方が不在時の避難行動など繰り返し訓練を行って欲しいと感じる。 交通安全については、PTA、地域を連携を継続して登下校時の事故が起きない様、機会を見ながら指導をお願いします。通学時に車の進入による事故が多発しているので、「右側通行」「広がって歩かない」「信号は守る」といった基本を十分に教えて欲しい。(特に新1年生)
	(5)保健管理	・「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的生活習慣の定着をはかる。 ・口腔内の健康の保持増進をはかる。 ・感染症対策として環境衛生に配慮し、刻一刻と変化する状況に応じ、必要な対処方法を選定、実施していく。	・児童の生活習慣アンケート結果や健康診断結果をもとに、ほけんだより、ホームページ、個人懇談会などを利用して保護者への啓発を実施し、学校放送、児童集会、児童保健委員会等を利用して、児童への効果的な啓発を実施する。 ・保健室での個別指導の強化 ・掲示物を利用した啓発活動を行う ・感染症対策としての環境衛生の啓発と充実をはかる。 ・児童の学校評価アンケートに以下の項目を付け加える。「あなたは学校で決められた場面において、手洗い・マスクの着用・3密回避などに気をつけた生活ができていますか？」	・アンケートで、「早寝・早起きを守っている」が70%(昨年度67%)を上回り、「朝ごはんを食べている」が90%(昨年度93%)を維持する。 ・歯科受診勧告書の提出率を経年比較し、受診率が1～4年60%(一昨年度54%)、5・6年40%(一昨年度38%)を上回る。 ・児童アンケートにより、児童の感染症対策への意識付けをはかる。	B	(成果) ・児童のアンケートより、「早寝・早起き」については64%(昨年度67%)、「朝ごはんを食べている」については93.5%(昨年度93%)ができていると回答。「朝ごはんを食べる」ということについては、定着しつつあるとみられる。 ・歯科受診率は、1～4年は59.1%で目標値とほぼ同等、5・6年は目標値を上回り、51.4%であった。 ・児童のアンケートより、「あなたは学校で決められた場面において、手洗い・マスクの着用・3密回避などに気をつけた生活ができていますか？」について94%ができていると回答。 (課題) ・「早寝・早起き」についてはまだまだ定着が難しい。	・「早寝早起き」にスポットを当てた指導や啓発を行い、基本的生活習慣の定着につなげていく。 ・受診率を上げることは大切だが、それだけでなく口腔内の健康を保持するための指導や啓発を進める。 ・感染症予防を意識し、「新しい学校生活様式」を組み込んだ保健指導を継続していく。	手洗い、マスクによって、インフルエンザは流行していないので、予防効果はかなり上がっていると思う。コロナ収束後の予防意識を継続出来る様検討して頂きたい。 集団行動のあり方も従来通りとはいかないと思うので、少しずつでも見直しや新しい発想を取り入れていって頂きたい。
	(6)保健体育教育	・児童の体力・運動技能の向上を目指し、運動への意欲・関心を高める。 ・体育施設、備品の充実をはかり、活動しやすい環境を整える。	・授業作りについての研修を行い、授業改善を計る。(ニュースポーツ、準備運動など) ・授業作りに関する本を配付し授業研究に生かす。 ・各単元が始まる前に備品や消耗品のチェックを行う。 ・備品を整理するために、どこに何がおいてあるかわかるように視覚的な配慮をする。	・学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的な意見の割合が75%を超える(昨年度72%) ・学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で肯定的な意見の割合が昨年度を超える。(昨年度①90%②82%)	B	成果 ・児童アンケート「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」の項目で肯定的な意見が96.2%(昨年度90%)で昨年度を上回った。 ・児童アンケートの「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか。」の項目で肯定的な意見の割合が83.9%(昨年度82%)で昨年度と同等であった。 課題 ①学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的な意見の割合が68.9%(昨年度72%)で75%を下回った。	①接触の少ない遊びを指導して、休み時間により外遊びができるようにしていく。	コロナによって、体力面でも低下傾向になっているかと思うので、改善策①を是非とも実行して頂きたい。 器具の修理など、運営協議会などに提案し、地域で得意な方などにも参加して頂く事も検討してもら良いかと思う。
	(7)人権・同和教育	人権・同和に関する問題や児童が抱える問題の対応について職員で情報を共有する。	・学級づくり研修会等の職員研修を実施し、人権・同和問題への理解を深め、一人一人の児童に寄り添った学級経営に取り組む。 ・児童の発達や実態に合わせた人権課題を取り上げ、人権同和教育授業参観等を活用して、授業を行う。 ・仲間づくり集会を行い、発表や事後指導を通して、より良い学級づくりに取り組む。	・児童アンケート「あなたがこまったときに先生は相談にのってくれますか」で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度91%) ・児童アンケート「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度90%) ・教師アンケート「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている。」で肯定的な意見の割合を維持する。(昨年度97%)	A	(成果) ・児童アンケート「あなたがこまったときに先生は相談にのってくれますか」で肯定的な意見が94%(昨年度91%)で目標を達成することができた。 ・児童アンケート「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか」で肯定的な意見が90%(昨年90%)で目標を達成することができた。 ・教師アンケートの「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている」で肯定的な意見が95%(昨年度97%)で、昨年度と同等を維持することができた。 ・動画視聴の形をとって仲間づくり集会を実施し、他学年の発表を聞いて自分自身を振り返ることができた。 ・参観は実施できなかったが、コロナ差別(仲間はずれ)に関する授業を行い身のまわりでおこっている差別について考えを深めることができた。 ・同和問題についての職員研修を行い、理解を深めた。 (課題) ①仲間づくり集会の実施方法を、授業時数の確保や感染症防止を考慮しながら工夫していく必要がある。 ②ネットトラブルの増加が懸念される。 ③目標は達成できたが、「悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている」と考える教職員の減少傾向が気になる。	(課題改善) ①コロナ禍でも、双方向での交流ができるように仲間づくり集会の実施方法を考え、目標を達成できるように取り組みを進めていく。 ②情報部と連携して、情報モラルに対する指導や、職員研修を実施する。 ③学級作り研修会を実施し、児童の悩みに対しての取り組み方について職員で研修を深める。	コロナによってタブレット授業等が増加しネット機器に対する知識が上がってくるが、ネットを通じた表出しにくいいじめ防止に気を付けて頂きたい。
	(8)特別支援教育	インクルーシブな社会の構築に向け、各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深め、思いやりの心を育て、助け合って共に生きようとする人間性豊かな子どもを育てる。	・教育のユニバーサルデザイン化を推進し、基礎的環境整備を図る。チェックシートを作成し、学校全体で共通理解して取り組む。学校全体で「意識できていない」項目に着目し、改善策を検討する。 ・支援教育研修会で各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深める。 ・部会(校内委員会)で支援の必要な児童について整理・報告し、各学年におろすことで全職員で共有していく。 ・各学級の配慮が必要な児童に対し、どのような合理的配慮を行うとよいか、様々なケースから具体策を検討する研修を行い、日々の実践にいかす。 ・各学級の配慮が必要な児童について、校内の支援の流れを整備する。	・教育のユニバーサルデザイン化チェックシートの項目で学期ごとにチェックし、学期を追うごとに「意識できている」が増える。 ・学校評価アンケート(教職員用)「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」(昨年度100%)「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」(昨年度97%)「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UDに)に取り組んでいる。」(昨年度100%)の項目で、肯定的な回答の割合を維持する。 ・学校評価アンケート(児童用)、「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度、90%)	A	(成果) ・1学期より「意識できている」が増えた項目が17項目あり、その中でも、10%以上伸びたものが9項目あった。 ・教職員アンケート 「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」で93%(昨年度100%) 「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」で97%(昨年度97%) 「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UDに)に取り組んでいる。」で97%(昨年度100%)と肯定的な意見の割合を維持することができた。 ・児童アンケート「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」で肯定的な意見が90%(昨年度90%)で同等の割合を維持できた。 (課題) ①低学年の内に支援を手厚くするためにも教員の、支援の必要な児童をみとる目を育てる必要がある。 ②UDについて、各学年によって浸透するのが2学期以降になったところがあった。支援部からのUDの共有化の働きかけが少なかった。 ③ユニバーサルデザイン化の取り組みに対する教職員の評価は肯定的な回答が維持できているが、客観的な評価は今年度まで取れていない。	①支援を要する児童をより早期に見抜くために、「低学年で必要な力」をリスト化し、教師間で足並みをそろえて情報共有や支援が行えるような体制づくりをする。 ②引き続き「教育のUD化チェックシート」を活用し、学期ごとに全教員が記入し、集約して数値化する。また、各教室の掲示物や見やすい板書などの具体的なUDを共有し、活用できるようにする。 ③来年度は、保護者に対しても校内のUDの取り組みを知っていただけるように働きかけ、保護者アンケートにもUDに関する項目を追加し、多面的な評価を行う。	近年、特別な支援が必要な児童が増加傾向にあると感じているが、機会を捉えて、理解が進む様取り組んで頂きたい。 校内のUDについては、保護者も分かっていない方が多いと思う。一覧表などに事例をまとめて紹介して頂けると、取り組みを知ってもらえるかと思う。(校内をビデオで撮り、ナレーションを入れて動画配信しても良いかと思う。)
	(9)特別活動	・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するための話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。 ・集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 ・児童の自発的、自治的な活動を通して、学級経営を充実させる。	・新型コロナウイルス感染防止策を講じたうえで、学級活動を中心として話し合い活動を行い、児童が積極的に学校をより良くするために行動や発言していくようにする。そのために、笹原小学校としての話し合いの型を作り、どのような学年の児童が集まっても同じ話し合いができ、合意形成できるようにする。(委員会、高学年用の型は活用されているので、低学年用の話し合いの型を作成する) ・児童会活動を通して、学校および児童が活性化する取り組みを考え、発信していくとともに、クラブ活動などの異学年交流を通して人間関係を育成する。	①教職員用内部アンケートの「学級会活動は、計画的に進められたか」で肯定的な意見が80%を超える。(昨年度75%) ②教職員用内部アンケートの「委員会活動を計画的に行えたか」(昨年度93%)、「クラブ活動を計画的に行えたか」(昨年度93%)で肯定的な意見が90%を超える。	B	(成果) ・コロナ禍の中ではあるが、感染拡大防止に配慮しながら児童会が企画した「笹原小学校クイズ」や「委員会紹介」ができた。「笹原小学校クイズ」は、スクールタクトという新しい形で行うことができた。 ・各クラスに、低学年用または高学年用の「話し合いの型」を配布し、活用を促すことができた。 ・①教職員用内部アンケートの「各教科・道徳・笹のね・外国語活動・特別活動の時間数は確保でき、計画的に進められたか」で肯定的な割合が98%(昨年度90%)で昨エンドと同等の割合を維持できた。ただし、昨年度と異なり特別活動の時間についてのみ答えられたものではないので留意が必要である。 ・②教職員内部アンケートの「委員会活動を計画的に行えたか」で89%(昨年度93%)と昨年度と同程度の割合を維持できた。 (課題) ・②教職員用内部アンケートの「クラブを計画的に行えたか」で、昨年度を下回った(昨年度93%→86%)。 理由としては、年に3回の活動では回数が少なく、児童の主体的な活動がしにくいということが挙げられている。	・②委員会とクラブ活動の回数と活動の方法を見直す。しかし、業務改善の視点から委員会とクラブは年に3回に設定した経緯があり、単に回数を検討するだけではなく、活動内容が主体的になるように考えていく必要がある。	感染防止で影響の大きい項目ではあるが、新たな発想や新しい工夫などアイディアを駆使出来るチャンスと捉えて頂ければと思う。 昨年度、今年度と先生方の御苦労には、感謝している。
開かれ信頼される学校園	(10)情報管理・情報教育	・ICT機器を活用し、わかりやすい授業作りに努める。 ・USBメモリ等の情報機器に関する管理方法について全職員で周知徹底をはかる。 ・情報教育(プログラミング教育・情報モラル・セキュリティ)の周知・推進を行う。	・パソコンルームや情報機器・School Taktについての基本的な使い方についての研修会・回覧等を実施するとともに、タブレット端末の使い方の研修を行う。 ・情報機器を整理し、どこに何があるかわかりやすいようにする。 ・プログラミング教育の基本的な取り組みについて研修を行い、周知を図る。 ・USBメモリの管理表を作成し、適切に使用する。 ・個人情報の取り扱いについて年度初め等定期的に注意喚起を行う。・保護者アンケートに以下の項目を付け加える。「タブレットの活用により、お子様の学習意欲は向上していると思いますか」	・学校評価教師アンケートの「本校は児童・保護者の個人情報の保護に努めている。」で昨年度より肯定的な回答の割合を維持または向上を目指す。(昨年度92%) ・学校評価保護者アンケートの「学校は子ども・保護者に関する個人情報を適切に保護していますか。」で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度94%) ・学校評価児童アンケート「先生は、ICT機器(テレビやパソコン・タブレット等)を使って、教え方にいろいろと工夫していますか。」で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度92%) ・学校評価保護者アンケート「タブレットの活用により、お子様の学習意欲が向上していますか」で肯定的な回答の割合が85%を超える。	B	(成果) ・学級閉鎖などに対応したオンライン授業の提案・実施 ・教職員アンケート「本校は児童・保護者の個人情報の保護に努めている。」で肯定的な意見が98%(昨年度97.8%)で維持できた。 ・保護者アンケート「学校は子ども・保護者に関する個人情報を適切に保護していますか。」で肯定的な意見が91%(昨年度84%)で目標の80%を上回ることができた。 ・教職員アンケートの「本校の教師は情報機器を活用し、分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。」で肯定的な意見が97%(昨年度92%)で昨年度を上回ることができた。 ・児童アンケート「先生は、ICT機器(テレビやパソコン、タブレット等)を使うなど教え方にいろいろと工夫していますか。」で肯定的な意見が95.5%(昨年度94%)で目標の90%を上回ることができた。 (課題) ①保護者アンケート「タブレットの活用によりお子様の学習意欲が向上していますか」で肯定的な意見が64%で目標の85%を下回った。 ②タブレットの持ち帰りによる加重負担(自由記述より)。 ③児童によるタブレットの不適切な利用。	①家庭において、タブレットを学習に活用できている児童が多くないことが考えられる。家庭での活用の仕方(学習クラブ、宿題等)を三講座などで提案する。学習アプリ導入の推進により、改善を目指す。 ②デジタル教科書の導入など状況の変化に応じて、生活指導部と連携しながら持ち帰りについて検討する。 ③年度始めにSchoolTaktのロック機能や共有機能に対する注意喚起(ラミネートしたものを配布)。モラル教育の研修。	タブレット学習には、先生方の得意、不得意も考えられ差が出るように感じる。他校との情報交換などで進んでいる良い事例を取り入れて頂く様願っている。又、板書と違って、操作することに気がいき、話が一方通行となりやすいので、注意して進めて頂けたらと思う。
	(11)保護者・地域との連携	・学校通信に加え、ホームページやメール配信を活用し、学校から積極的な情報発信を行う。学校行事、地域行事などを通して、地域、コミュニティスクールとの関係を深めていく。 ・「QRコード・ツイタもん」などの活用により、学校・保護者間のやりとりのデジタル化を推進する。	・多くの教職員がホームページを更新できるよう周知し、チェックシートを活用してどの学年も情報を発信していく。 ・地域行事等に可能な限り教職員が参加できるよう呼びかける。 ・学年便りや学校からのおしらせにQRコードを記載したり、ツイタもんで連絡行い、学校ホームページの活用推進を図る。	・毎月、学校通信・学年通信を発行する。 ・学校評価保護者アンケートの「学校は「学年だより・笹小だより」やHP・下校メールなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。」で昨年度より肯定的な意見の割合を維持する。(昨年度96%) ・各学年の学びの具体的な様子を毎月1回程度ホームページで公開する。	A	・新規HPの立ち上げ ・家庭との連絡のデジタル化の推進(Google Classroomを活用した配布物の電子化、Google Formを活用した欠席連絡) ・保護者アンケート「学校は「学年だより・笹小だより」やHP・下校メールなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。」で肯定的な意見が97.2%(昨年度96%)で当程度の割合を維持できた。 ・学校評価教師アンケートの「本校は学校だよりやHPなどで学校の情報を発信している。」で肯定的な意見が100%(昨年度100)で同等の割合を維持できた。 (課題) ①配布物の電子化による意見への検討(自由記述)。	①印刷しやすいようにA4サイズに設定して配布するなど、保護者の意見を取り入れながら、配布する。	紙、電子媒体と使い分け効率の良い伝達方法を構築して頂ければと思う。 学校運営協議会委員にも、保護者と同じ内容を発信して頂ければ、もっと学校内の情報の理解度、様子など深まると思う。(下校メールや連絡事項も含む)
	(12)施設・設備	・児童が安全に学校生活を送れるよう、修繕・改修すべき施設・設備がないか確認するとともに、既存の施設を安全に使えるよう、また、新しい施設を快適に使えるよう児童に指導していく。 ・「きれいにしよう」とする意思・能力・態度を育て、清掃時間が自分を磨く時間となるよう指導していく。	・毎月1回の安全点検を行い、技能員と連携して迅速な対応を行うとともに、安全な設備の使い方の指導を適宜行う。 ・全職員は自分の担当場所だけでなく近くの清掃場所も見回る。 ・保健委員会と連携する。 ・地域の方(笹ポーターさん)と連携し子どもたちの清掃活動を見守る。 ・清掃活動が充実したものになるよう、清掃道具の補充、点検を行う。	・学校評価児童アンケートの施設・設備の項目「学校の道具や器具が壊れた時、すぐに修理してくれていると思いますか」で肯定的な意見の割合が85%を超える。(昨年度82%) ・学校評価教職員アンケートの施設・設備の項目「本校は施設・設備などの点検を定期的に行って安全に気を配っている」で、昨年度と同等を維持する。(昨年度95%) ・環境整備に対し児童、職員の意識が向上する。 ・学校評価児童アンケートの「あなたは清掃に前向きに取り組んでいますか」で肯定的な意見の割合を、昨年度と同等を維持する。(昨年度90%) ・学校評価保護者アンケートの「学校は児童に清掃の仕方や意義を指導している」で肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度77%) ・学校評価教職員のアンケートの「学校は清掃についい意欲的に取り組むように指導が出来ている」で肯定的な意見の割合を、昨年度と同等を維持する。(昨年度81%)	B	《成果》 ・「学校の道具や器具がこわれた時、すぐに修理してくれていると思いますか。」で肯定的な意見が83.9%(昨年度82%)目標の85%には届かなかったが、大規模改修も完了し、後期は、修繕箇所が少なくなった。 ・新型コロナウイルスの影響で実施出来た回数は少なかったが、笹ポーターさんと連携し子どもたちの清掃活動を見守ることができた。 ・児童アンケート「あなたは掃除に前向きに取り組んでいますか」で肯定的な意見が90%(昨年度90%)で昨年度と同等であった。 ・教職員アンケート「学校は清掃について意欲的に取り組むようにできている」で肯定的な意見が88%(昨年度81%)で昨年度を上回ることができた。 《課題》 ①保護者アンケート「学校は清掃の仕方や意義を指導していますか」で肯定的な意見が76%(昨年度77%)で昨年度と同等であり、80%を上回らなかった。	①保護者アンケートの結果、18．9%が「わからない」と回答。清掃の意義や指導が家庭に十分伝わっていないことが考えられる。学校からのおたより(学校だより等)で家庭へ発信・啓発していく。 ・安全点検で軽微な段階から報告し、早期に対応するよう努める。 ・児童アンケートの結果からも分かるように、児童は清掃活動に前向きに取り組むことができている。 ・今後も前向きに清掃活動が行えるよう、清掃道具の点検・補充を引き続き行う。	大規模改修も完了し、きれいな状態を維持していく大事さを子どもたちにしっかり伝えて欲しいと思う。 コロナで笹ポーターによる清掃支援も滞っているが、次年度も引き続き、支援をしていきたいと考える。先生方と意見交流しながら、道具の見直しも協議出来ればと思う。

学校関係者評価総括

2年続きのコロナ禍で、計画の変更も多々あった中で、子どもたちのために懸命に取り組んでいただいて敬意を表します。

次年度に向けた重点的な改善点

コロナ禍で従来の教育活動が十分行えなかったため、引き続き学校運営協議会と検討の上、笹ポーターをはじめとする地域の皆様、保護者と協力して、これまで積み上げてきた連携を再構築する。学校、家庭、地域のつながりをさらに強化する。「教育のユニバーサルデザイン」について共通理解の上、地域に信頼される学校作りを進める。